

V. 学会創立以前のわが国の胸部外科
(『30年の歩み』より抜粋)

日本外科学会雑誌より年代をおって胸部外科に関する題名を選び出して我国の第二次大戦前までのものを年表にのせた(87頁参照)。胸部外科の戦後の様子は前にのせてある諸先生のお話の中にもあるので終戦後胸部外科学会創立までの経過は除外した。

その前に我国の外科の歴史や発展の一端を佐藤清一郎先生のお話してみるのも興味深い(元東京医専教授, 昭和40年5月17日死亡, 胸部外科2巻2号昭24年)。

さてわが国外科の歴史を今さらにここに喋々するもおかしいが、ここに一顧を投じると、明治初年に海外旅行免状第1号をもってドイツに渡り、ベルリン大学を卒業したのは佐藤進氏(私の祖父)で、ちょうどその時起った普佛戦争に加わり、軍陣外科を実地見学して明治8年帰朝した。

その新智識をもって順天堂において一般医師を教育し、西南戦争、伏見会津の役、さらに日清・日露の役に、軍医総監として純洋式外科をもって戦傷者の治療に当たった。

その後大森治豊氏が九州で無腐手術を高唱して縦横の手腕をふるい、多数の内臓外科例を発表して、佐藤氏とともに本邦初期の二大外科医と謳われたのは人のよく知るところである。

外科において、かかる偉人がでたにもかかわらず、胸部外科・脳外科ともになんら特筆すべき進歩を見ずに数十年を経過したのである。これはしかし実に世界的の傾向であって、あなたがち日本ばかりを責めるわけには参らぬのである。

ドイツにおいては、すでに1858年 Freund が肺結核に対し、第一肋軟骨の切除を強調したのが最初といわれているが、彼れは肺結核の原因として上部胸廓の狭窄(軟骨の短小および化骨)に主点を置いたのに反し、Kaufmann の教室の佳田、岩崎、佐藤(私)はこれに対抗して、肺結核の発生機序について幾多の研究をやった。

これが今から36~37年前のことで、当時岩崎小四郎君は兎の上胸部に針金を巻いて狭窄を起さしめ、ゲッティンゲン大学の五階の屋根の上で結核菌をブウブウゴム球で動物に吹きかけて苦心をしていたことを覚えている。私は動物の肋軟骨を移植して狭窄を起さしめて、同様の試験を繰返しなどした。斜角筋切断術を創案したのはこの頃である。

その後ベルリンにでて、永井秀太君を勧誘し、大学の結核研究所に通学して、人工気胸の臨床と動物実験を習得して日々永井君と虚脱療法を議論したものである。帰朝後は永井君が人工気胸を唱道し、仙台の熊谷博士とともに大いにその普及に努めたが、世間一般は歓迎せず一時下火となった。これは大正4~5年の頃である。

私は当時、気胸術よりは胸廓成形術に精進したが、患者の数が少く、孤軍奮闘の気味で嫌気がさし、肺壊疽手術の方へ転向したのである。この方が手術がむずかしいだけに興味も深く、一般には少い病気とされた肺壊疽も、約500人以上を治療して空洞切開に苦心すること約20年を数えた。

結核の方はその後、次第に勃興し来り、石川、土井、武田、榊原の諸氏が臨床例を発表し、他方動物試験では以前から河村、茂木、金谷の諸氏が種々努力されたものである。

宿題報告としては、尾見、石川氏の外、小沢氏の肺切除、石山氏の肺虚脱、佐藤、篠井の肺壊疽ならびに気管支造影法等が特筆されるべきものであった(この造影法はハワイにおける汎太平洋外科学会において好評を博し、その写真は懇望されてスタンフォード大学レ線科に寄贈した)。

このほか食道外科の大沢、瀬尾、中山氏、心臓外科の榊原、小沢氏等それぞれ有益なる研究を発表され、そのほか鳥瀉氏の平圧開胸説も学界を大いに賑わした。

かかるうちに昭和11年、都築氏は佐藤とともに日本代表としてハワイにおいて講演をなし、さらにアメリカ本土を視察して帰朝してコロロス氏成形術を実施し、結核外科の沈滞に対し注射を施した観があり、各地結核療養所、傷痍軍人療養所を中心とする若手外科医の奮起があって、加納、宮

本、会田、高橋の諸氏の報告となり、昭和22年の宿題において、海老名、鈴木、武田、加納、卜部氏等が努力の結果を披露され、終戦後の活躍ぶりも目覚ましいものがあった。このほか河合、青柳、内田、沢崎の諸氏もそれぞれ貴重な研究を発表された。

この年表をみると我国の胸部外科の発表は日清戦争より始まったことになる。これをみると昭和12年頃までは肺疾患のすべてのものに手がつけられている。また膿胸、輸液など現代医学と内容は同じようである。心臓外科の実験的報告は昭和12年頃より、肺結核の外科は昭和13年頃より開始された。これらの中で特に興味ある個所を引用したい、その一つは平圧開胸か陰圧開胸かの問題について京大鳥潟教授が第39回日本外科学会会長をせられた時、九大後藤教授との問答である。

追加2 (59, 岩崎氏ニ対シ)

長崎医大第二外科 辻村 秀夫

余ハサキニ第31回外科学会ニ於テ平圧開胸術ニヨル横隔膜「ヘルニア」ノ手術例ヲ報告セリ。今次再ビ他ノ例ヲ経験シ之ヲ追加ス。

26歳、男子ニシテ胃底ガ食道ノ後ヲ廻リテ左胸腔ヘ脊柱ノ右ニ沿ヒ出デコレラ包ム囊ハ胸膜、「ヘルニア」内容ト強キ癒着ヲナセリ。開腹術ニヨリテハ処置シガタキヲ知り、後平圧開胸術ニヨリテ漸ク剝離還納シ「ヘルニア」門ノ処置ヲナシ得タリ。

尚之ノ例ハ比較的稀ナリトセラル、真性「ヘルニア」ナリキ。

会長「私ハ会長ノ地位ヲ離レテ一會員トシテ聊カ述ベサセテ頂キマス。

昨年ノ本会ニ於テ、平圧開胸トイフコトニ関シテ、大阪ノ小沢教授ガ鳥潟ノ説ニ全幅的ニ賛成スルト言ハレタノニ対シ、後藤教授ガ起立発言サレテ、之ハ鳥潟ガ創メタノデハナイ、佛国外科学者が既ニヤッテ居ル。文献ヲ知ラナケレバ借シテヤルト小沢氏ニ言ハレタ。ソレデ私ガ先ヅ其ノ文献ヲ拝借シマシタ。之ハ Pierre Duval 著, R. Grègoire et A. Courcoux 著及ビ Moynihan 著ノ三部デ、何レモ1917年ニ出タ小冊子デアリマス。Duval ノ論文ハ1922年5月ノ Presse médicale ニモ載ツテ居リ、自分ハ知ッテ居リ、1925年ノ教室ノ論文ニモ掲ゲテアリマス。今度拝借シタ書物ニモ、其ノ84頁ニ於テ、次ノ記載ガアリマス。“Ces methodes (過圧装置モ陰圧装置モ) sont physiquement rationnelles……併シ bien peu pratiques” トアリマス。即チ過圧装置デモ減圧装置デモ、合理的デアルガ、戦場ナドデハ不便デ実用価値ハ少イト申シテ居ルノデアリマシテ、「異圧装置、殊ニ過圧装置ヲ行ッテハナラス、ソレハ有害デアル」トイフ主張ハンテオラスノデアリマス。他ノ二冊ノ文献ニ至リテハ一向ツマラスモノデアリス。

私共ハ佛国外科ガ言フガ如ク「過圧ハ合理的デアルガ、実用上不便デアルノデ、過圧ガ無クテモ開胸出来ル」ト言フノデハナイ。我々ハ「過圧装置ハ無用有害デアル、カカル有害ナモノハ使ツテハイケナイ」ト主張シテ居ルノデアリマシテ、此ノ主張ハ世界中京大外科以外ニハ何処ニモ無イノデアリマス。此間ノ差別ヲ辨ヘナイデ、佛国デハ京大外科以前ニ既ニ異圧装置無クシテ開胸シテ居ルカラ京大外科ノ主張ハ佛国学派ノ後塵ヲ拝スルモノデアルカノ如ク述ベタ後藤教授ノ論述ハ当ラナイノデアリマス。

当時佐藤清一郎教授ガ発言シテ、「過圧ナンデ自分モ以前ニ手術ヲヤツタ」ト述ベテ、京大ノ主張以前ニ平圧開胸ヲ行ツタトノ意味ヲ附加サレマシタガ併シコレハ平圧開胸術デハナイ。

之レハ「過圧装置ハ無効且ツ有害デアル」ト言ウ京大外科ノ如キ主張ヤ自覚ガアツテヤツタノデハナイ。即チ決シテ「平圧開胸術ヲ行ツタ」ト申スベキモノデハナイ。佐藤教授ハ1925年ノ本会席上デモ同様ノコトヲ述ベラレマシタ。其ノ当時ハ Sauerbruch ノ過圧装置ガ世界ヲ風靡シテキタ時代デアリマスカラ、モシモ佐藤教授ガ今日京大外科ノ主張スルガ如ク「過圧開胸ハ無用ニシテ且ツ有害ナリ」トイフ学術的信念カラ、其ノ当時既ニ過圧無シデ開胸シタト申サレルナラバ、当時ニ於

テ其ノ主張ヲ学会ニ発表スベキデアリマス。併シ其ノ如キ発表ハアリマセン。即、佐藤教授ノ行ツタノハ何等學術的主張ガアツテノコトデハ無クシテ、申サバ無意識ニ偶然行ツタト申ス迄ノコトデアリマス。佐藤教授ノハ「自分モ林檎ノ落チルヲ見タ」ト言フノト同ジデアリマス。京大外科ノ如キ學術的主張アリテノコトデハアリマセン。

後藤教授ニオ願ヒスルノハ、京大外科ニ於ケル平圧開胸術ノ主張ハ佛国其他ノ如クニ「平圧デモ開胸ガ出来ル」ト申スノデハ無クシテ、「過圧は無用デ且ツ有害デアル、平圧デナケレバナラス」ト主張スル次第デアツテ、此ノ主張ハ世界中京大外科ダケデアツテ、ソレ以外ニハ何国ノ学者モソノ様ナ主張ヲシテ居ラスト言フコトヲ認識シテ頂キタイノデアリマス。」

後藤教授「私ハ昨年ノ本会ニ於テハ平圧開胸術ガ数千例ニ於テ大戦當時ニ行ハレタルコトニツキ文献ヲ紹介シタノデアリマス。而シテ1917年ノ *Pierre Duval* 氏ノ著書ノ中ニハ結論トシテ「……一言以テ之ヲ言ヘバ一般外科手技ガ肺ニモソノママ、完全ニ行ハレルモノデアル……」ト申シテ居マス。又1918年発行セラレタル *Abstracts of war surgery* ニ於テハ次ノ通りノ結論ガ肺ノ外科ニツキテ書イテアリマス。

「……Among other things, it has been shown, that the fear of pneumothorax during operation is unfounded and that without any particular danger, one may perform a large thoracotomy or evert the lung, lobe by lobe, just as one does loops of intestines, palpate, incise, resect and then replace it in the thorax. The lung is not redoubtable organ that it was before the war……」トアリマシテ肺ノ手術ニ当リ特別ノ装置ヤ手技ハ要セスト言ウ結論ニナツテ居リマス。

之ヲ歴史的ニ調べテ見マスレバ佛学派ハ古クヨリ主トシテ平圧開胸ヲ主張シテ両側ノ平圧開胸ヲ行フモ必ズシモ常ニ死亡スルモノデハナイコトモ記載サレテ居マス。独逸学派ハ氣圧差異装置ヲ使用スルコトヲ主張シテ居リマス。

鳥瀉教授ノ教室ヨリ発表セラレタル先年ノ業績ニツキテハ當時何等異論ヲ申セシコトナク之ヲ承認シテ居マス。本邦ニ於テハ主トシテ独逸学派ノ文献ガ読マレテ居マスカラ余ハ佛国方面ノ平圧開胸ノ文献ヲ紹介セシ次第デアリマス。」

会長「只今ノオ話シニ対シテ私ハ申シマスガ、京大外科ノ主張ハ「平圧開胸デモデキル」トイフノデハナクシテ「平圧開胸デナケレバナラス、過圧開胸ハ有害デアル」トイフノデアリマス。此点（日佛主張ノ相違）ヲオ認メ下サイマスカ？」

後藤教授（低声デ）

「認メマス。」

会長（大イニ意気込シテ）「有難フ。」（拍手）

後藤教授「平圧ノ方が良イト言フコトハ、独逸デモ認メテ居リマス。亜米利加デモ亦タ認メテ居リマス。過圧ガ悪イト言フコトハ鳥瀉教授教室カラノ論文ヲ觀テカラニシマス。」

会長「平圧開胸ノ方が良イトイッテイルト言フダケデハ足ラナイノデアツテ、過圧装置ガイケナイ（不可）ト主張シテキルノデアル。其ノ点ニ就テ……」

モウツ疑問トスル処ハ昨年ノ本会デ、「軍医学校デ異圧装置ナシニ犬ノ肺切除ヲ行ッタ」ト述べラレマシタガ、ドウシテ犬ヲ使ハレマシタカ」

後藤教授（エッ……）（聞き返ス）

会長（質問ヲ繰リ返ス）

後藤教授「犬ハ *Mediastinum* ガ弱クテ手術ガ一番ムツカシイ。兎デハ *Mediastinum* ノ強サハ人ト犬ノ間位デアル、私ハ独逸学派ノ學問ヲシテキタノデ学生諸君ニ *Demonstration* ノ意味デヤッタ

ノデアリマス。」

会長「犬デヤラレタノハソウユウ意味ナラバ分リマスガ、若イ士官達ニ見セルニハ、犬ヲ選ンダト言フコトハ賛成出来マセン。後デ伺ッタ所ニ依ルト、確カ其ノ犬ハ10日位デ出血デ死ンダサウデアリマスガ、犬デハ中々成績ハ得ラレマセン。平圧開胸デヤルノハ犬デハ不適當デアリマス。ソレハ犬ハ縦隔竇ガ弱イ許リデナク、時ニハ左右ノ胸腔ガ交通シテイル様ナモノガアリマス。過圧装置無シノ実験ニ犬ハ全ク良クナイノデアリマスガ、只今述ベラレタ様ナ御積リデアレバ良ク分リマシタ。」

独逸学派デハ従来主トシテ犬ニ依ル実験結果ニ従ッタ關係上異圧装置が必要ナリトノ主張ニナッテ居ツタモノデアリマス。兎トカモウ少シ大キケレバ牛トカヲ実験ニ使ッテ居ツタナラバ過圧装置ヲ主張セズニスンダモノト考ヘラレマス。犬トカ馬トカハ此種ノ実験ニハ避クベキ筋ノモノデアリマス、私ハ昨年ノ学会デ後藤教授ノ申サレタ時ノ其ノ当時ノ感想ヲ只今述ベタダケデアリマス。」

後藤教授「私が軍医学校ニテ犬ヲ実験動物トシテ肺切除ノ手術ヲ行フコトガ必ズシモ適當ナラザルコトハ承知シテ居マスガ、人ノ材料ヲ得ルコトガ出来ナカッタノデアリマスカラ学生ソノ他ニ示ス為メニ犬ヲ用ヒテヤリマシタ。」

大正8年私が九州大学ニ赴任シテ間モナク胸部ノ開放性切創ノ患者ガ入院シマシタガ、当時余等ハ平圧ノ下ニ処置シテ之ヲ縫合閉鎖シマシタ経験ガアリマス。之ハ珍シイ事実デモナイノデ発表モシテ居リマセン、独逸学派ガ新シイコトノ様ニ言ッテ居ルガ、既ニ沢山ヤラレテ居ルト言フコトヲ言ッタダケデアリマス。京大外科カラノ発表モ詳シク読ンデ知ッテ居ルノデアリマシテ、私ハソウ申シ込ンダ筈デスガ、ドウデスカ？」（拍手）（会場騒然）

会長（只今ノオ話デハ京大外科カラノ発表ヲ既ニ精読サレヨク知ッテ居ルトノコトデアリマスガ、シカシ先刻ノオ話デハ「過圧装置有害」ノ主張ヲシテ居ルカ否カノ点ヲ認メルコトニ関シテハ京大外科教室カラノ論文ヲ読ンダ上デ返答ヲスルトノコトデアリマスガ、何レガ真実デアリマスカ「過圧装置ガ不可ナイ」ト京大外科ガ主張シテ居ルノデアルトイフコトヲ承認サレマスカ？」

後藤教授「実験の研究ハ認メマス。」

会長（再ビ）「「過圧装置ガ不可ナイ」ト主張シテキルノデアルト言フコトヲオ認メニナリマスカ？」

後藤教授（小声デ）「其レハ認メマス。」

会長（意気込ンデ）「有難フ」（更ニ語ヲ次ギ、会衆ニ向ヒ）

「諸君！ 過圧装置ハ独乙ノ年来ノ主張デアリマシテ、Sauerbruch モ生存シテオル今日一朝一タデソレヲ放棄スルトハ考ヘラレマセンガ、早晚歴史のニナルモノデ、必ズ平圧開胸術ノ時代ガ来ル筈ノモノデアリマス。私が Thürich デ Sauerbruch ノ手術ヲ見タノガ1913年デアリマシタガ、手術中ニハ過圧装置ヲ傍ニ置イテアルダケデ、ソレヲ使ッテ居ナカツタ。私ハ此ノ有様ヲ視テ之ハ妙ナコトデアルト考ヘマシタ。当時ハマダ「インチキ」ト言フ言葉ヲ知リマセンデシタガ、コレハ實際「インチキ」ナノデアリマス。過圧ハ唯ダ最後ノ胸壁縫合ノ時ニダケ使用シテ胸腔内空気が膨脹肺ヲカリテ排除シタノミデアリマシタ。ソレデ帰學後研究ヲ進メテ今日デハ「過圧ハ無用ナルノミナラズ却ッテ有害ナリ」トノ結論ニ到達シタノデアリマス・京大外科以外世界中何処ノ国デモ斯ノ如キ主張ハシテ居ヌノデアリマスカラ、京大外科カラ提供シタ「平圧開胸術」トイフ術語ハ「過圧ハ無用ナルノミニ止ラズシテ却ッテ有害ナリ」トイフコトガ京大外科ノ主張デアルト認メタ上デ使用シテ頂キタイノデアリマス。」

（此ノ演説中後藤教授降壇自席ヘ帰ル、会場騒然）

会長（着席）「他ニ御発言，御座イマセンケレバ60番」

（此ノ時会場後方坐席ヨリ「会長」，「会長」ト呼ブ声アリ．会場騒然タルタメ会長ニ聞エヌ様子ナリ．会長取り上げズ．更ニ「会長発言ヲ許セ」「勝手ナコトばかり言ッテ駄目ぢヤナイカ」，「佐藤ニ言ハセロ」，「佐藤先生シッカリ頼ミマス」等叫ブモノアリ．

佐藤教授（自席ニ起立）

「佐藤デスガ．」

会長「ア，佐藤サンデスカ，良ク見エマセンデ失礼シマシタ，ドウゾ此処へオ出デ下サイ．」

（佐藤教授登壇）

佐藤教授「私ハ態々此処ニ上ッテオ喋リスル筈ハ無イノデアリマスガ．タマタマ私ノ名が出タ以上，又タ唯今ハ何ダカ興奮サレテ面倒ノ様（会長ノ方ヲチラツト見ル）ニ見エマシタノデ，時間が切迫シテ居ルコトデアリマスガ，演壇デ喋言ラシテ頂キマス．私ハ独乙ノ過圧開胸ヲヒイキシテ日本ノ鳥潟サンニ反対スルト言フノデアリマセン．私ハ一昨日ノ講演デ *Pneumotomie* ノコトヲ話シマシタ．肺ノ手術モ色々アリマスガ私ハ切開ヲヤッタノデアリマス．此ノ時癒著ヲ突嗟ノ間ニ作ルタメニ工夫シナケレバナリマセン．其ノ時ニハ肺ヲウマク捕ヘテ胸壁ニ縫ヒ付ケレバ良イノデアリマスガ，空氣が肋膜腔ニ入り肺が萎縮スルト縫合出来ナイコトガアリマス．ソレデ私ハ幸ニ装置ガアツタカラ，過圧ニ依リ肺ヲ膨脹サセテ置クト操作ガ仕易イ，此ノ際ニモ機械ガアルカラ使ッタマデデ，過圧ヲ用ヒテ手術後ニ大シタ害モ認メナカッタ．過圧装置モアル場合ニハ便利ナコトモアル．

会長「ソノ他ニ御発言，ゴザイマセンケレバ60番．」

我国の戦前・中の胸部外科の報告（日外会誌より）

— 胸部外科学会発足まで —

- | 年 回 | 論説、演説とその要約 |
|---------|---|
| 明治33～34 | 2 食道癌に施したる胃瘻患者の「デモンストラチオン」：小山 善
嚥下困難を訴え、癌腫による食道下部狭窄症例に対し胃瘻造設、後療法、解剖報告（4症例） |
| 34～35 | 3 胸部銃創に就て：富田忠太郎
日清戦争での胸部銃創15例報告，内肺損傷11例，その他膿胸，気胸合併に対する穿刺，排膿治療についての報告 |
| 36～37 | 5 肺壊疽の外科的手術治験：江口 襄（三重）
肺切開で治療，壊疽部の切開には胸膜癒着が必要，癒着なき場合には人工的に作成 |
| 40～41 | 8 肺膿瘍の2例に就て：古賀玄二郎（盛岡）
蛔虫による肺膿瘍例で1例治癒，他の1例死亡
胸廓射創に継発せる12の症例に就いて：黒岩 徳明
日露戦役に於て銃砲創（銃創 6,401人，砲創 2,191人）の内胸廓に銃砲創を蒙りしもの1,216人，14.15%，内142人について創の概要を述べ，動静脈瘤，膿胸について報告
肋骨肉腫2例：阿部 資夫（東京） |
| 42～43 | 10 膿胸の療法に就て：黒川 健士（東京）
食塩水で洗浄，30～120mmHg 陰圧で持続吸引 |
| 43～44 | 11 陳旧性膿気胸に対する胸廓切除術の経験：赤岩 八郎（福岡）
膿気胸に対する手術はシェーデ氏法を第一とする．しかし不能例にはジモン氏法を行う．
肺気腫に対するフロインド氏手術：平野 友作（伊勢） |
| 44～45 | 12 （宿題報告）全身麻酔：中山 茂樹（東京）
2 症例報告効果
麻酔薬，抱水クロラル，ブroomエチール，笑気，クロールエチル，エーテル，嚔嚔仿
謔麻酔薬による術式，深度，薬理作用，嚔嚔仿謔酸素混合麻酔が安全，次いで1909年の
Melter, Auer（米）の気管内麻酔の紹介．
乳腺に於けるバジェット氏病の1例に就て：関口 蕃樹（東京大）
縦隔竇皮膚様囊腫の手術例：茂木藏之助（東京大）
2 例報告，内1 例死亡． |
| 45～46 | 13 乳癌の骨転移の1例：林 文（京都）
肺動脈の結紮に由る人工的肺萎縮に就て：河村 叶一（京都）
家兎，犬の下葉動脈結紮，組織検査，人工的肺結核に有効であった．
乳癌と卵巣摘出術：久留 春三（山田）
摘出前後の癌腫細胞核小体を比較． |
| 大正2～3 | 14 乳腺に発生する良性腫瘍に関する知見補遺：鈴木平十郎（京都大）
12例を示しその組織，悪性腫瘍との関係を記述．
全身麻酔の統計的研究：茂木藏之助（東京大） |

- エーテル、クロロホルム麻酔は最良、局所麻酔に全身麻酔の併合は経過良好。
 進行性肋骨軟骨壊死の原因及其療法：泉 伍朗（福岡）
 手術治験例を報告，其原因菌，細菌の毒力を動物実験。
 腫瘍状肋膜結核に就て：中山 茂樹（東京）
 胸廓食道の手術的療法に就て：尾見 薫（大連）
 食道切除縫合，食道胃縫合，食道移植を実験犬で行う。
 気管支喘息に対するフロインド氏手術の效果に就て：赤岩 八郎（福岡）
 肺壞疽の外科的療法補遺：河田 直吉（福岡）
 肺臓の摘出，附代償性肺臓肥大：河村 叶一（京都）
 咯血例（肺損傷）の治験例。
 肺臓手術後の瓦斯交換及血液変化に就て：茂木藏之助（東京）
- 3～4 15 肺疾患に対し横隔膜神経及肋間神経切断の影響に就て：尾見 薫（大連）
 肺臓の化膿性疾患，結核に対し4症例の報告。
 食道切開摘出せる異物例：長宗我部俊城
 乳腺切断術に於けるカール・ベック氏切式に就て：村上 幸多（東京）
 乳腺に於けるページェット氏病に就て：田 半作（岡山）
 乳腺に発生せる肉腫性癌腫：高野 直吉（東京）
 肺疾患外科療法：尾見 薫（大連）
 肺刺創治験：尾見 薫（大連）
 肺臓の摘出に関する実験的研究：河村 叶一（京都）
 残存肺の肉眼的，顕微鏡的变化，心臓の状態の結果，シェーマーカーの陽圧装置の得失を
 列挙。
 胸腔外科補遺：河田 直吉（福岡）
 チーゲル氏陽圧装置による手術，肺壞疽3例，胸部食道癌5例，噴門癌1例。
- 4～5 16 肺放射線状菌病：平野 友作（三重）
 3症例報告（外科的治療）
 肺結核其他，胸腔疾患に対し部分的肋膜外面形成術（肺臓虚脱療法）を試みたる2，3の報
 告及該療法の部位方法に関する実験的比較研究に就て：佐々木次郎三郎（沼津）
- 5～6 17 （宿題報告）肺臓外科：尾見 薫（大連）
 肺気腫，肺外傷，肺化膿症，肺結核，肺腫瘍等各種肺疾患の治療法の紹介，自験症例報告
 乳腺のカルチノザルコーム：有光藤三郎（東京）
 肺葉結紮の肺動脈及大動脈圧力に及ぼす作用：久野 寧（奉天）
 肺臓の血量：久野 寧（奉天）
- 6～7 18 肺壞疽の手術的療法に就て：宮川 量（福岡）
 21例中死亡8，治癒11
 気胸の成立及黃疸処置に関する実験的並臨床的研究：鈴木寛之助（東京）
 ボーテン氏吸引器で胸腔内吸引治癒例報告，また外傷性気胸についての処置。
 胸廓腫瘍（縦隔竇）に「レントゲン」療法をなしたる治験例：長町 穆，片田 種介（千葉）
 肉腫に対する治療が卓効。
 化膿性心嚢炎：錦織 芳（松江）
- 7～8 19 乳癌の手術的成績に就て：筒井 省二（福岡）
 118例中3年経過例 108例，再手術4例，術死6例。

- 肋膜骨形成を伴える膿胸に就て：村上 幸多（東京）
 肺組織の創傷治療機能に就て：宮川 量（福岡）
- 8～9 20 肺結核並に陳旧性膿胸に対する胸廓成形術に就て：森 武美（天津）
 3例の内1例治癒，1例軽快，1例膿胸遺残。
- 9～10 21 胸腔手術後に於ける「ドレナーゼ」に就て：飯島 博（福岡）
 ドレナーゼの原理を物理的に説明。
 肺臓外科に於ける2，3の自家考案器械に就て：佐藤清一郎（東京）
 手術的療法を施せし胸腔内腫瘍に就て：三宅 速（九州）
 12例の報告（食道癌，大動脈瘤，肺癌，肋膜肉腫等）
- 10～11 22 膿胸に対するシェーデ氏手術適応の決定に対する知見補遺：斉藤 眞（愛知医専）
 膿胸の治療的経過，治療法，腔内容量曲線，X線像，さらにベステル氏装置を以て治療せる場合に於ける治癒機転。
 乳腺良性腫瘍の肉腫変性に就て：鈴木平十郎（東京）
 肺剥出の可能性：金谷 卓爾（東京）
 肺壊疽並に肺腫瘍の手術成績に就て：佐藤清一郎（東京）
 肺壊疽6例，腫瘍3例の手術報告，腫瘍は早期発見すべき由
- 11～12 23 手術後肺合併症：萩原 義雄（京都帝大）
 肺炎，肺壊疽，膿瘍，肺水腫，肺栓塞，肺結核の増悪等につき年齢，麻酔法，手術部位，術中の影響について統計的観察。
 肺臓皮様囊腔，肺臓癌及肺壊疽の手術：佐藤清一郎（東京）
- 12～13 24 横隔膜の病理及び生理に関する研究：田中 義雄（愛知医専）
 人工的横隔膜炎，濾過状態，淋巴管系統及び開腹術後の続発性肺炎の発生原因に対する批判。
 結核性胸囲寒性膿瘍の手術就法にて：伊藤 肇（京都帝大）
 手術療法，従来の方法の批判。
 気胸の病的生理に関する知見補遺：隅 鎮雄（九州）
 摘出し得たる肺臓腫瘍の諸例に就て：佐藤清一郎（東京）
- 13～14 25 乳癌の骨転移を来せし2例に就て：滋野井至孝（軍医学校）
 症例と骨転移を来す癌，癌性特発骨折の予後療法。
 陳旧性膿胸の治療方針に就て：伊藤 肇
 肺臓手術の酸素消費量に及ぼす影響の実験的研究：関口 審樹
 肺臓外科手術の治験例：関口 審樹
 人工気胸の健康肺及結核肺に及ぼす作用に就て：尹治 衡
 過圧酸素吸入の血液成分に及ぼす影響に就て：泉山 幸吉
- 14～15 26 陳旧性膿気胸に対するシェーデ氏胸廓切除術の遠隔成績：鶴澤 正雄（九州帝大）
 膿胸 120例中陳旧性に移行したもの50例，内38例にシェーデ氏手術施行，原因菌の分析，全治20例，未治4例，不治1例，就労17例。
 乳癌の統計的観察，特にその手術の遠隔成績に就て：横山 健夫（九大）
 215例についての発生，転移，手術成績，組織学的検査について記述。
 喘息の外科的療法，特に頸部交感神経切除とフロイド氏手術との比較及後者の遠隔成績に就て：石山福二郎（九大）
 膿胸治癒の機転に就て：西尾 重（愛知医大）
 肺臓手術の実験的基礎：工藤 八郎（京都）

- 一側肺全剔出に関する実験的研究：日下部旦三（金沢医大）
 家兎肺臓切除剔出術後の呼吸及び血液の変常に就て：中村 愛助（九大）
 家兎肺臓切除剔出後に於ける胸壁の変形及び内容臓器の変位と其予防に関する実験的研究：
 中村 愛助（九大）
 以上実験の肺剔出術に関して過圧開胸か平圧開胸か鳥潟，後藤，佐藤，大野，茂木，隅，
 角田，尾見，三宅諸氏が討論。
- 大正15～昭和2 27 心臓外科の実験的研究：石山福二郎，角田 博（九大）
 心嚢の外科的意義（1）
 開放性気胸の呼吸運動に関する実験的研究：泉山 幸吉（東北帝大）
 胸膜X線照射の実験的研究：坂田 敬之（東京帝大）
 胸膜癌手術治験例並びに其病理組織所見：関口 蕃樹（仙台）
 平圧開胸について関口，鳥潟氏の討論。
 肺結核の手術的療法に就て：石川 昇（金沢）
 胸腔外科手術に於ける人工呼吸装置：由茅二五四（京大）
 （宿題報告）結核に対する交感神経切除術実験的批判：小沢 凱夫，清水源一郎（大阪）
- 2～3 28 肺臓代償機能に関する組織学的研究：佐藤 隆房（東北帝大）
 肺臓剔出による残存肺の代償機能（予備能力）により充分で肺組織，肺胞の組織的变化を
 記述。
 心臓外科の実験的研究，心嚢の外科的意義（2）：石山福二郎他（九大）
 前縦隔竇切開術の適応症に就て：石川 昇（金沢）
 両側開胸術に応用せられるべき補助呼吸装置に関する実験的研究：由茅二五四（京大）
 肺臓手術に於ける胸壁の処置に就て：佐藤清一郎（東京）
 結核性膿胸に対する胸廓成形術に就て：原 守蔵（大阪）
- 3～4 29 気管支喘息の外科的療法に就て：柳 壮一他（北海道帝大）
 出血性乳房に就て：西山 逸平（岡山医大）
 膿胸の治療方針に就て：広瀬 研之（京都帝大）
 気胸に関する実験的研究：角田 博（九州帝大）
 平圧開胸術の下に行われたる洞横隔膜的噴門成形術の一治験例：大沢 達（京都帝大）
 胸廓成形術に関する実験的研究．特に其「リビヨドール」レントゲン像影観察に就て：佐藤
 隆房（東北帝大）
 肺結核の手術成績並に其適応症に就て：石川 昇（金沢医大）
- 4～5 30 肺門部神経支配に関する実験的研究並にその臨床的意義：日下部旦三（金沢医大）
 手術的肺臓欠損の心臓に及ぼす影響：佐藤 隆房（岩手）
 胸部損傷に関する臨床的並に実験的研究：角田 博（大阪）
- 5～6 31 （宿題報告）肺結核外科：石川 昇（金沢医大）
 肺結核の発生進転，病理，他臓器との関係，手術適応，各種手術方法（空洞切開，肺葉切
 除，血管結紮，剝離術，交感神経切断，横隔膜神経捻除，気胸，胸廓成形，充填術，さら
 に各術式の組合せ）手術成績について記述。
 膿胸の療法に就て：竹居 勇（千葉医大）
 排膿法とその成績について報告。
 平圧開胸術の下に行われた肺結核の手術的療法に就て：横田 浩吉他（京都府医大）
 局麻と全麻の併用，人工気胸を確実に行う。
 平圧開胸開腹術による食道下部，胃上部手術に就て：大沢 達（京都帝大）

- 5 例の報告，食道空腸端側吻合施行。
肺臓癌の手術例に就て：河石九二夫他（愛知医大）
2 例報告，ブロンコグラフィー，立体的レ線観察の必要。
気管支喘息の外科：玉置 俊雄（北海道帝大）
頸部交感神経切除の呼吸に及ぼす影響について。
癒着性心嚢炎手術例：篠原 一幸（北海道帝大）
- 6～7 32 （宿題報告）輸血：桐原 真一（愛知医大）
血液型不適合の症状，輸血法，副作用について。
肺結核に対する肋膜外胸廓成形術に就て：土井 保一（東京帝大）
14例に施行，全例1～11肋骨切除。
平圧開胸術の下に行われた肺結核の手術的療法に就て：横田 浩吉他（京都府医大）
横隔膜神経捻除術の経験：武鉦 宣他（大阪医大）
- 7～8 33 気管支性喘息に対する植物性神経手術の適応症決定：橋本 義雄（名古屋大）
先づ迷走神経切断を行い効なき場合は更に交感神経切除を行う。
気管支喘息患者の気管，気管支腔内径並に頸部交感神経切除術のその管内径に及ぼす影響に
就て：大立目 東（北海道帝大）
解剖学的要綱，健康肺気管，気管支内径，患者の気管，気管支内径，発作間歇時の観察，
発作時の観察，アドレナリン注射による影響，神経切除時の内径の変化について。
気管支喘息の外科：王真 俊雄（北海道帝大）
交感神経切除術の肺血管に及ぼす影響について。
（宿題報告）食道外科：瀬尾 貞信（千葉医大）
食道の基礎，病理，生理，解剖学的提要，臨床外科では食道疾患の症例提示，診断法，胃
瘻造設術，食道癌の手術法，手術成績に就いて解説。
実験的食道外科：佐久間嘉一（千葉医大）
食道縫合術，胸部食道に到達する術式について。
（宿題報告）食道外科：大沢 達（京都帝大）
食道解剖生理，開胸による諸実験（肺機能，ガス交換，心機能，肋膜感染問題），手術の影
響（迷走神経，横隔膜），臨床的には診断法（X線食道鏡），手術々式，その他食道疾患につ
いて。
- 8～9 34 肺臓癌手術治験：横田 浩吉他（京都府医大）
平圧開胸術及び肺葉の部分切除に就て。
肺結核，特に空洞を有する結核肺の手術方針に就て：庄山 省三
- 9～10 35 後縦隔竇撮影に就て：鋤柄 秀一（千葉医大）
トロトラストによる造影。
- 10～11 36 気管支皮膚瘻孔の2例：卜部美代志（東京帝大）
格子状肺（ギッテル Lung）の臨床的並に組織学的知見：佐藤清一郎他（東京医専）
平圧開胸肺剝離術に関する知見補遺：佐谷 秀雄（京都府医大）
開胸後の胸膜癒着に就ての実験的研究。
- 11～12 37 （宿題報告）気管支撮影法：佐藤清一郎（東京医専）
手技，正常及び病的気管支の運動，種々薬剤及び外科的手術による気管支への影響，各疾
患における気管支造影像（1,020例）
余等の喘息手術に就て：小沢 凱夫他（大阪帝大）
一側気管支閉塞が瓦斯交換，血液瓦斯，特に両肺の個別流血量に及ぼす影響に就て：来須

- 正男他（京都府医大）
 中心性格子肺に就て（映画供覧）：篠井 金吾（東京医専）
- 12～13 38 実験的充実性肺虚脱に関する研究：小田源太郎（岡山医大）
 充実性肺虚脱の肝臓，網内系細胞系，肺臓糖中間代謝並に「インデカン」形成に及ぼす影響．肺虚脱の肺の組織学的所見．
 肺炎及び肺膿瘍に於ける肺血管レ線像に関する実験的研究：浅井高昇二
 家兎肺内に家兎腫瘍乳剤を注入し，形成した肺炎及び肺膿瘍に対しての肺血管の態度を研究．
 呼吸曲線に関する問題：中山 恒明（千葉医大）
 術後充実性肺虚脱の生成機序に関する実験的研究（殊に腹内急性疾患との関係について）：
 野間 安則（岡山医大）
 諸種結核性疾患の保存的及び手術的療方は個体の結核の運命に如何に影響するか：深井 忠作（新潟大）
 外科的結核症の研究（第1回報告）：都築 正男（東京帝大）
 心臓外科の臨床的経験と実験的知見補遺：榊原 亨（岡山）
 術後肺炎と血栓形成に関する実験的研究：久本 正人（九州帝大）
 一側肺動脈或は肺静脈の血行阻止が肺機能に及ぼす影響について：来須 正男他（京都府立医大）
 上葉結核に対する複合肺炎萎縮術の適応と効果について：武田 義章（大阪帝大）
 肺葉全切除術に関する研究：小沢 凱夫（大阪帝大）
 （宿題報告）膿胸：膿胸に関する報告を以下の七氏が行う．
 膿胸の成因に関する実験的研究：三羽 兼義他（大阪市）
 臨床統計並に実験的研究に立脚せる急性膿胸治療法の検討：今津九右衛門（京都府）
 膿胸の治療経過中に於ける膿汁の研究：斉藤 正（東京帝大）
 陳旧性膿胸に於ける肋骨変化：田上幸治郎（金沢医大）
 吾教室に於ける膿胸の統計的観察：橋本 泰（九州帝大）
 膿胸遺残死腔の理想的治癒について：青柳 安誠（京都帝大）
 膿胸の治療について：本名 文任他（台北医院）
- 13～14 39 （宿題報告）肺壞疽：佐藤清一郎，篠井 金吾（東京医専）
 肺壞疽 350例，肺化膿症解剖屍体 635例につき病因，臨床及び治療について論述，肺壞疽と肺化膿症を区別し，臨床症状，治療法，特に手術の時期は個々によって決定し，時期を失わざらんことが外科療法の要点である．
 （宿題報告）急性肺虚脱：石山福二郎（岡山医大）
 臨床例と実験成績を發表，虚脱の病理，症候，診断，鑑別診断，経過と合併症，治療法，予防法について論述．
 （宿題報告）肺切除：小沢 凱夫（大阪帝大）
 肺の生理，解剖，喘息の治療法，呼吸障害の病態，肺切除の限度を動脈血酸素飽和度で測定，50%（慢性）以下では呼吸困難が生ずる，麻酔についても述べ，肺癌，肺結核，肺膿瘍，気管支拡張症について症例を提示．
 生体肺動脈撮影法及び其の臨床的応用：藤野 重雄他（名古屋医大）
 原発性結核性膿胸の治療方針に就て：青柳 安誠（京都帝大）
 肺上葉炎の外科的療法：武田 義章（大阪帝大）
- 14～15 40 肺動脈の「レ」線学的研究：石川 利夫（名古屋医大）

- 肺動脈の神経支配に就ての実験的並びに臨床的研究。
 肺動脈の「レ」線学的研究：今村 勲（名古屋医大）
 肺動脈の病的像に就て。
 （宿題報告）陳旧性膿胸：青柳 安誠（京都帝大）
 陳旧性の定義，解剖，生理学的変化，治療法について。
 外科的虚脱療法を施せる肺結核患者の遠隔成績に就て：神戸 恒夫他（金沢医大）
 心臓鏡に就いて：榊原 亨他（岡山）
 臨床的に応用（僧帽弁不全症例）
- 15～16 41 肺循環並に血液瓦斯より見たる肺機能に関する研究：徳元 卓三（岡山医大）
 気管支瘻を伴える陳旧性膿胸の有茎性筋肉弁充填に依る治験例に就て：青柳 安誠（京都帝大）
 心臓内手術の実験的研究：榊原 亨（岡山）
 心臓鏡下に心臓内手術，異物摘出，弁膜切開。
 心臓縫合並に縫合糸に就て：津田 次郎（岡山）
- 16～17 42 （宿題戦傷）戦傷心臓留弾に就て：永江 大助他（軍医学校）
 心臓外科に関する実験的研究：隆山 以文（大阪帝大）
 心臓内手術に対する三原則（如何なる条件で切開すべきか，如何なる方法で心臓に達するか，如何なる部位を切開すべきか）
 肺結核患者に於ける脊椎弯曲の治療的意義：武田 義章（大阪帝大）
 肺結核症に於ける胸廓成形術の基礎代謝に及ぼす影響に就て：加納 保之（村松晴嵐荘）
- 17～18 43 心臓鏡による僧帽弁閉鎖不全症手術の臨床経験：榊原 亨他（岡山）
 肺壞疽の観血的療法の適応と其の遠隔成績：篠井 金吾（東京医専）
 肺萎縮術に於ける手術量決定法に関する研究：武田 義章（大阪帝大）
 最近に於ける肺結核外科の動向に就て：都築 正男（東京帝大）
- 18～19 44 胸廓成形術後の胸壁動揺に関する研究：加納 保之（村松晴嵐荘）
 130例の胸成術者を対象。
 胸廓成形術（semb 氏法）の肺結核患者に及ぼす影響：宮本 忍他（東京療養所）
 57例を対象に末梢血液，肝機能に及ぼす影響をみる。
 肺結核症に対する撰択的肺成形術の治療効果に就て：都築 正男他（東京帝大）
 182例の遠隔成績結果を発表。
 心臓の「レ」線断層動影法に就て：中山 恒明他（千葉医大）
- 19～20 45 胸廓成形術の肺結核治療効果に関する批判：加納 保之他（村松晴嵐荘）
 難治性瘻孔，特に混合感染を来せる結核性瘻孔の一次的縫合閉鎖に就て：河合 直次（千葉医大）
 縦隔竇に於ける奇静脈レ線陰影の診断なる意義，特に奇静脈撮影法に就て：鈴木 次郎（千葉医大）
- 20～21 46 実験的ショック時に於ける胸廓並に気管支のレ線学的変化に就て：山田 真治他（名古屋帝大）
 頸部腺剔出に依る気管支喘息の療法：中山 恒明他（千葉医大）
 結核性肺空洞症に対する有茎性筋肉弁充填術：青柳 安誠他（京都帝大）
 結核性巨大肺空洞に対する空洞吸引術と胸廓成形術との積極的合併療法の価値に就て：海老名敏明（東北帝大）